

巻頭言



沖縄によせる想い

個人的に、ずっと以前から、沖縄のことは大好きでした。琉球から続く独特の伝統文化、それぞれの島に残る独自の言葉、温暖な気候と豊かな海、すぐに親しくなれる飾らない人々。毎年最低一回は家族で旅行に訪れ、それ以外にも機会を捕まえては沖縄を訪問し、少しずつ沖縄の友人も増えていきました。

そんな想いをもち続けている中で、昨年11月の安倍内閣成立に伴い、内閣府大臣政務官に任命されました。そしてその担当業務の中に、沖縄政策が含まれていることを知って、大好きな沖縄のために仕事ができる機会を与えて頂けたことに、心から感謝しました。

沖縄担当の大臣政務官に就任してからは、ほぼ毎月、沖縄を訪問しています。就任以前も含めて現時点までで私が訪問したことのある沖縄の島は、沖縄本島、伊江島、久高島、座間味島、石垣島、竹富島、宮古島、与那国島、久米島、南大東島の10島です。今後できるだけ多くの離島を訪問し、政務官在任中では時間が足りないとは思いますが、最終的にはすべての島を回りたくと思っています。

沖縄には、経済の問題、基盤整備の問題、農業問題、基地の問題、離島問題、国境問題など多くの政策課題があります。もちろんそのすべてに精力的に取り組まなければなりません。自分の得意分野を活かしてさらにできることはないかと考えました。私は、政治の世界に入る前は飲食業界でお酒を扱う仕事に10年間従事していました。その経験を活かして、「沖縄のお酒の振興」に取り組むことにしました。

沖縄には、たくさんのお酒が存在します。47の酒造所で造られた1000もの銘柄があるといわれる泡盛、オリオンビール、南大東島のラムなど、魅力的なお酒がたくさんあります。しかしながら、現時点では、その魅力を最大限に活かしているとは言えないと考えています。

「沖縄県産のお酒の潜在能力を何とかして引き出したい。」その想いを持つ有識者の方々に集まって頂き、議論を重ねた結果がこの報告書です。今後は、この報告書を基に、議論から実行へと進んで行きたいと思っています。

内閣府大臣政務官
谷本 たつや

はじめに

沖縄のお酒については、自主基準の制定を始めとした古酒の積極的な展開、『泡盛同好会』や『紺碧会』¹の活動など、現在、各方面で沖縄のお酒の普及のための取組みが行われているところです。これらの取組みは、今後とも続けていただくことが期待されますが、更に発展させるためには、新しい取組みも必要です。この報告書は、そのような見地から、本土からの新たな視点も踏まえた取組みをいくつか提案させていただくものです。これらの提案は、今後の発展のために少なからず手掛かりになると思います。

1: 県外の各都市でも、泡盛を普及するための様々な活動が行われています。全国及び香港に広がる『泡盛同好会』24団体(平成19年2月現在)や、全国4都市で活動する『紺碧会』が、その代表例です。

目次

はじめに	1
沖縄のお酒にはどのようなものがあるのでしょうか	2
沖縄のお酒を更に広めるために必要なことは	6
沖縄のお酒を発展させるために具体的にやるべきことは	8
どのように実行すればよいのでしょうか	16
おわりに	17